

平成28年6月21日(火)

# おとなの生きる力

## — 社会人に求められる資質・能力 —

神戸学院大学  
人文学部 教授  
国立教育政策研究所名誉所員

立田慶裕

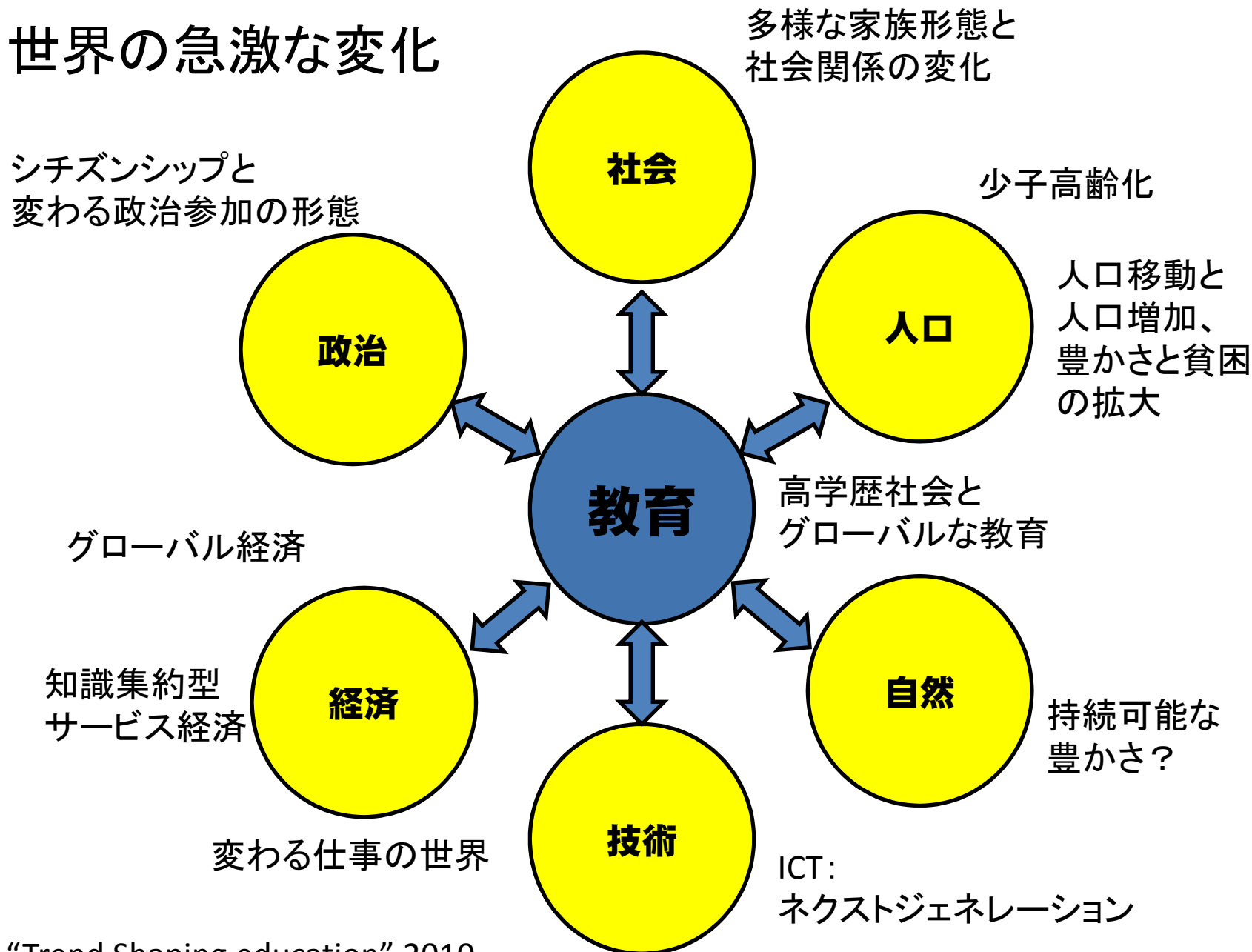
# 本日の内容

I 世界の急激な変化

II コンピテンシーをめぐる議論

III 社会人に求められる学び直し

# I 世界の急激な変化

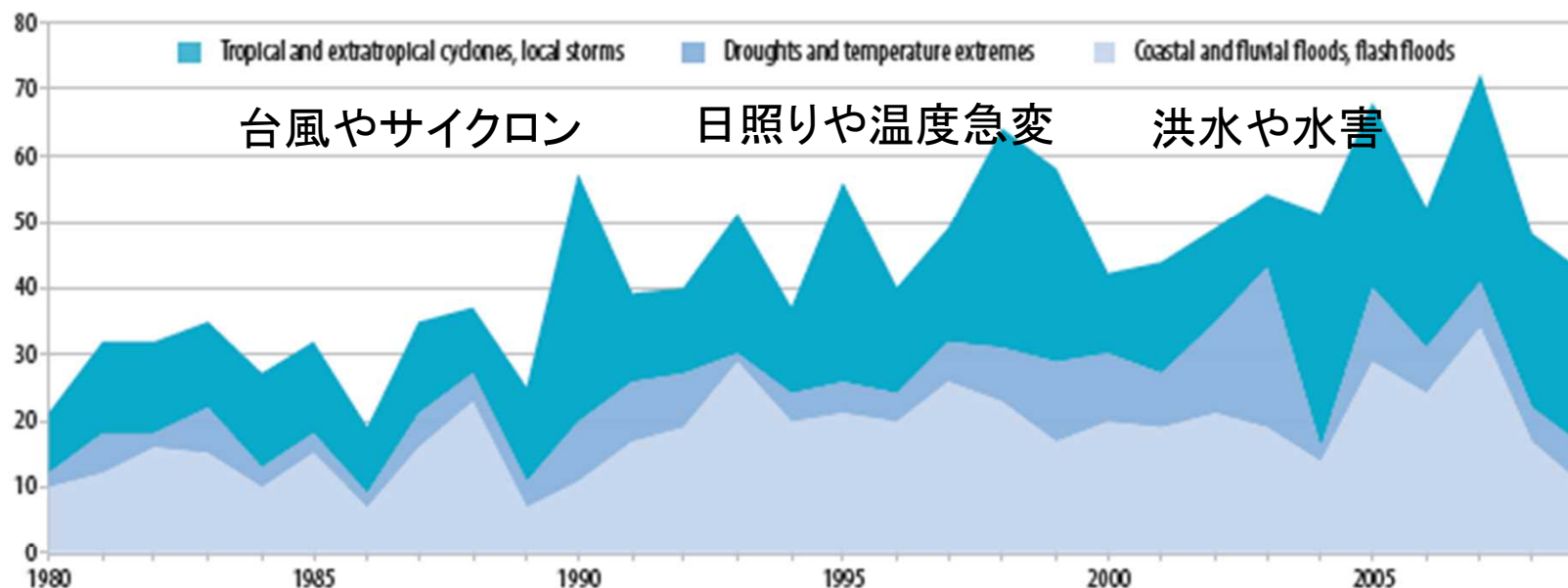


“Trend Shaping education” 2010

# 自然災害の日常化

“Trend Shaping education” 2013

Figure 1.10. Natural disasters becoming more commonplace  
Number of natural disasters by type, 1980-2009



StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888932757751>

Note: Trends in weather-related disasters are compiled using information from the Emergency Events database of the Centre for Research on the Epidemiology of Disasters. This database also monitors direct economic losses and the number of victims.

Source: OECD (2012), *OECD Environmental Outlook to 2050*.

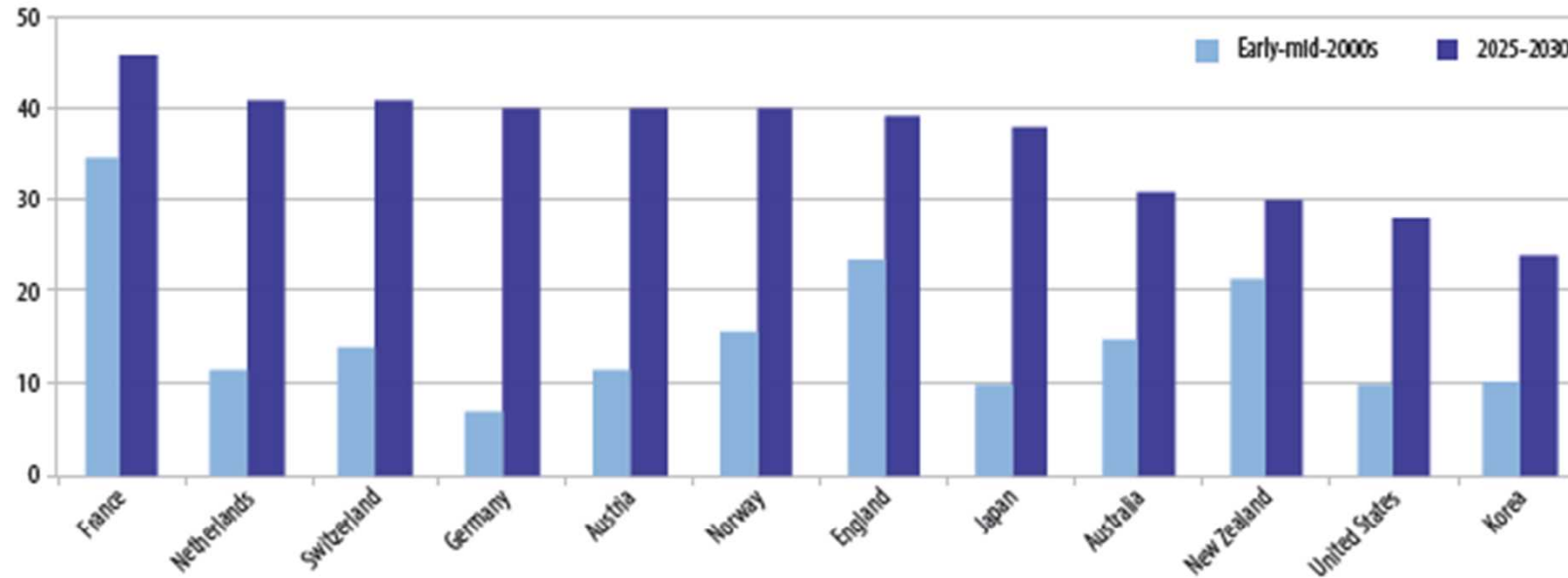
自然環境の維持的発展(ESD)に、教育はどれだけ貢献できるか

防災教育システムでどれだけ減災できるか

# ひとり世帯の増加 日本も2030年までに40%へ

Figure 2.3. Home alone: The rise in single-person households

Number of one-person households, in the early to mid-2000s and projected to 2025-2030



StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888932757884>

Note: A one-person household refers to a household in which a person makes provision for his or her own food or other essentials for living without combining with any other person to form part of a multi-person household.

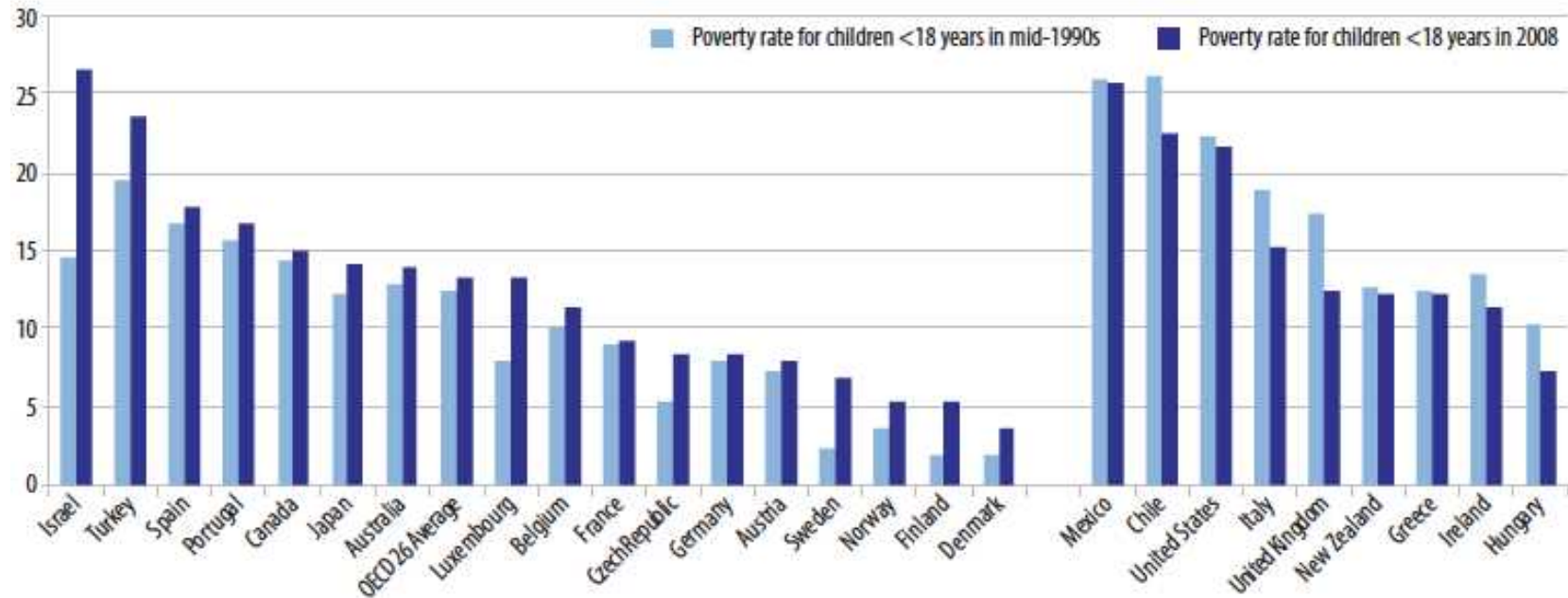
Source: OECD (2011), *The Future of Families to 2030*.


地域の教育力をどう維持するか：地域人材の供給不足

家庭の教育力をどう支援するか：子供の貧困化

# 子どもの貧困率の増大

Figure 4.11. Child poverty still tending to rise  
Child poverty rates, in mid-1990s and 2008



StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888932758568>

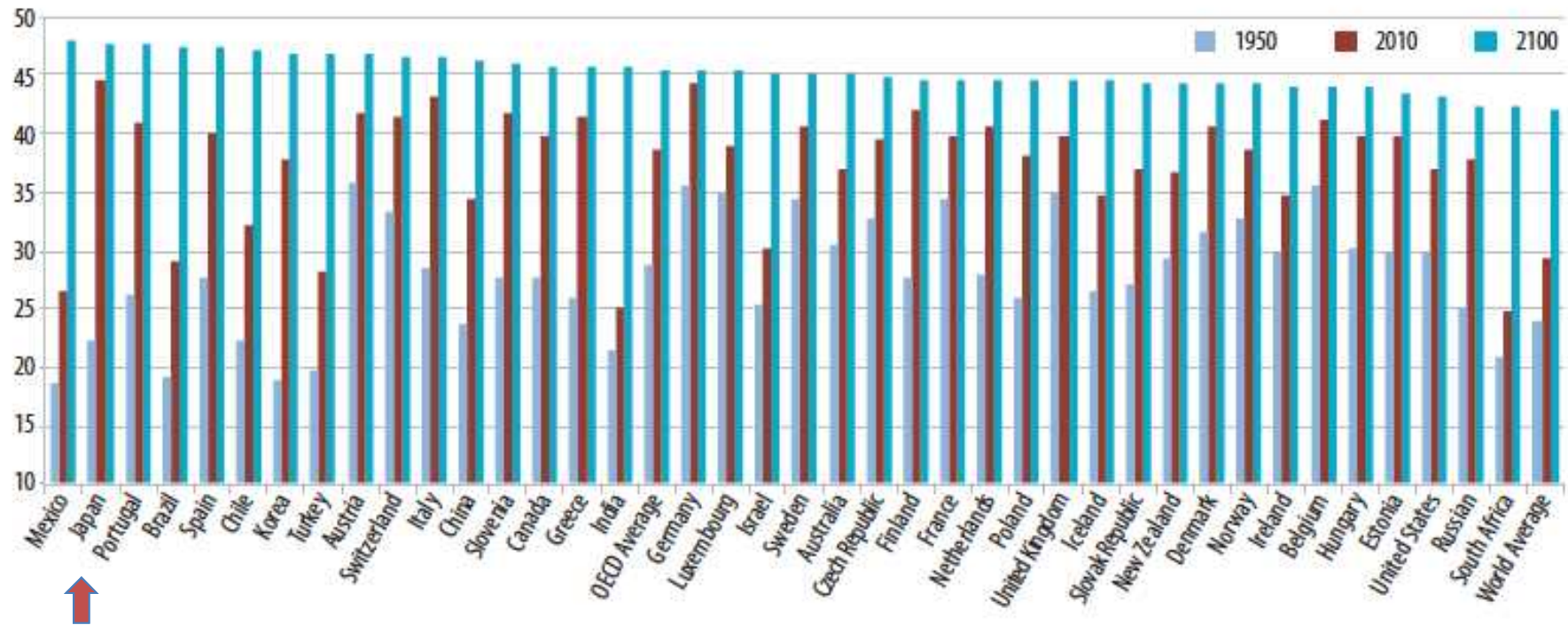
Note: The childhood poverty rate is the percentage of children aged <18 years who live in a family where the total income is less than 50% of the median income in their country. The median is the mid-point between the highest and the lowest income levels in the population.

Source: OECD (2011), OECD Family Database.

教育機会の格差の是正をどう進めるか

# 高齢化する世界

Figure 4.1. Median age going up into the next century  
Median age of the population, in 1950, 2010 and 2100



StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932758378>

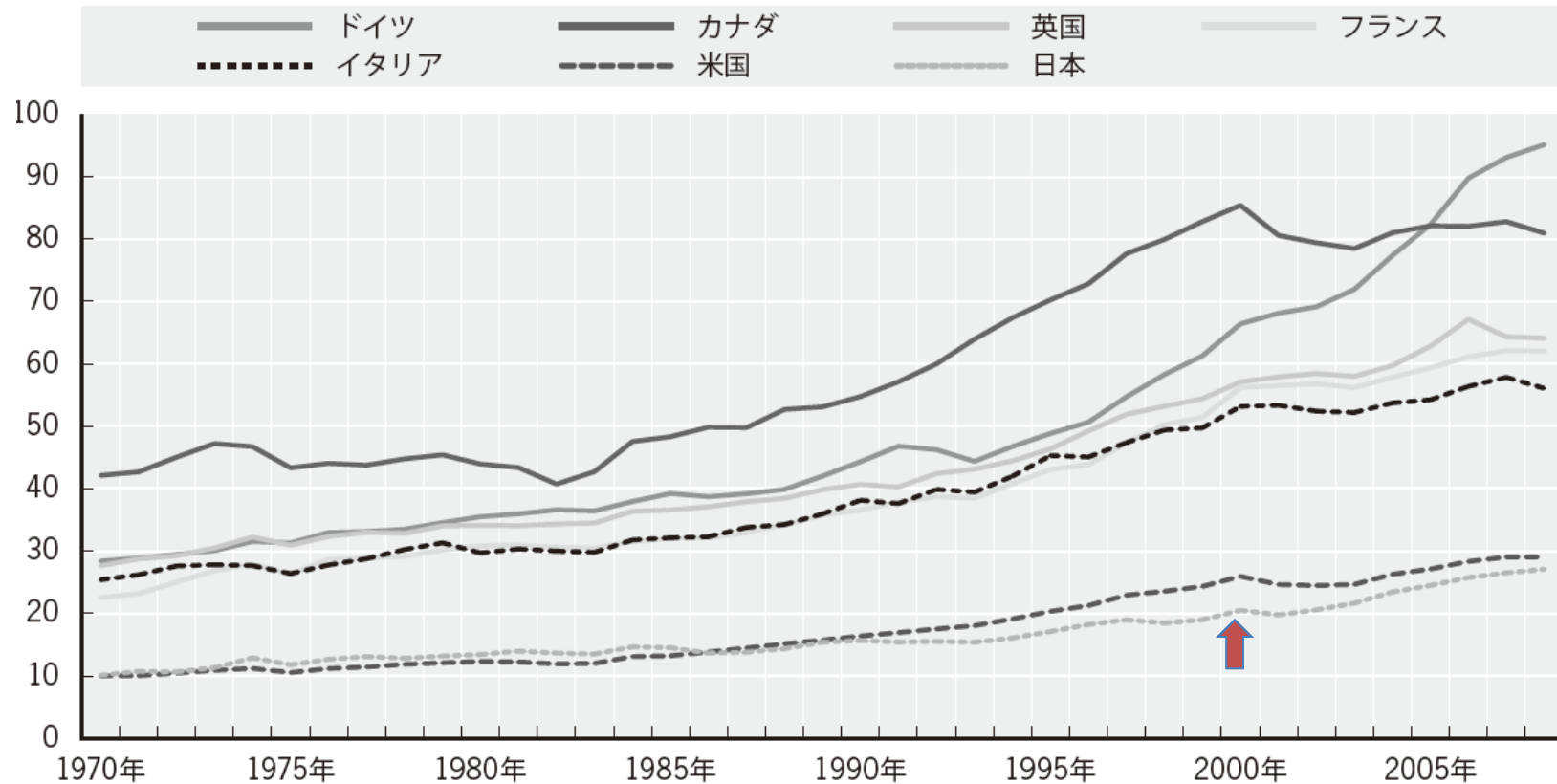
Note: The median age is the age that divides the population in two parts of equal size, that is, there are as many persons with ages above the median as there are with ages below the median.

Source: United Nations Population Division (2010), *World Population Prospects: The 2010 Revision*.

教育者や専門家の高齢化が何をもたらすか

# 各国で進むグローバル化

図1.9 ますます進む経済のグローバル化  
総貿易額のGDPに占める割合、G7諸国、1970～2009年



Statlink : <http://dx.doi.org/10.1787/888932320827>

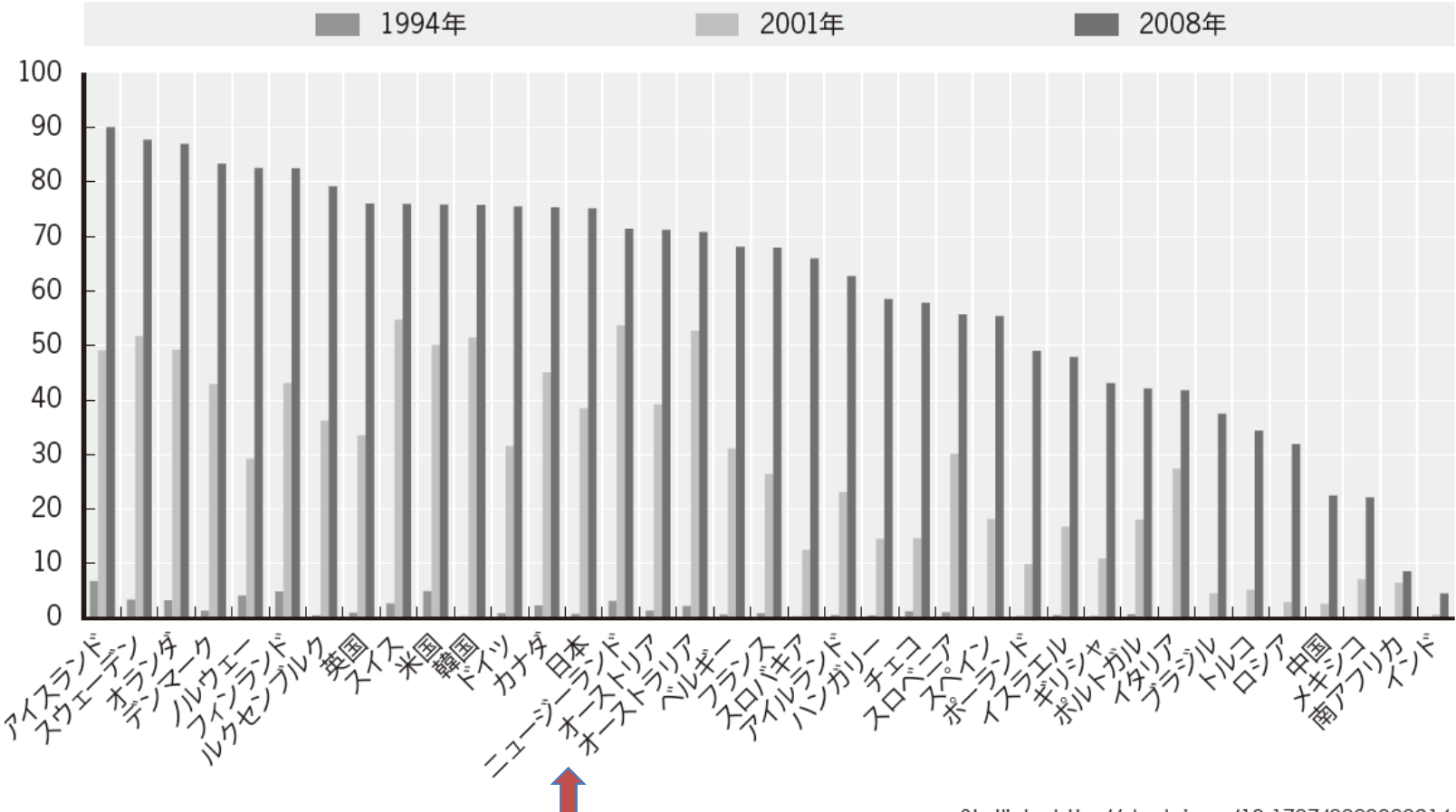
出 : OECD (2009) *OECD Stat: Macro Trade Indicators*.

グローバル化に応じて見につけるべき知識とスキルは？



# インターネットの普及

図5.8 ユニバーサルなインターネット使用へ  
人口100人中インターネットユーザー数、1994年、2001年、2008年

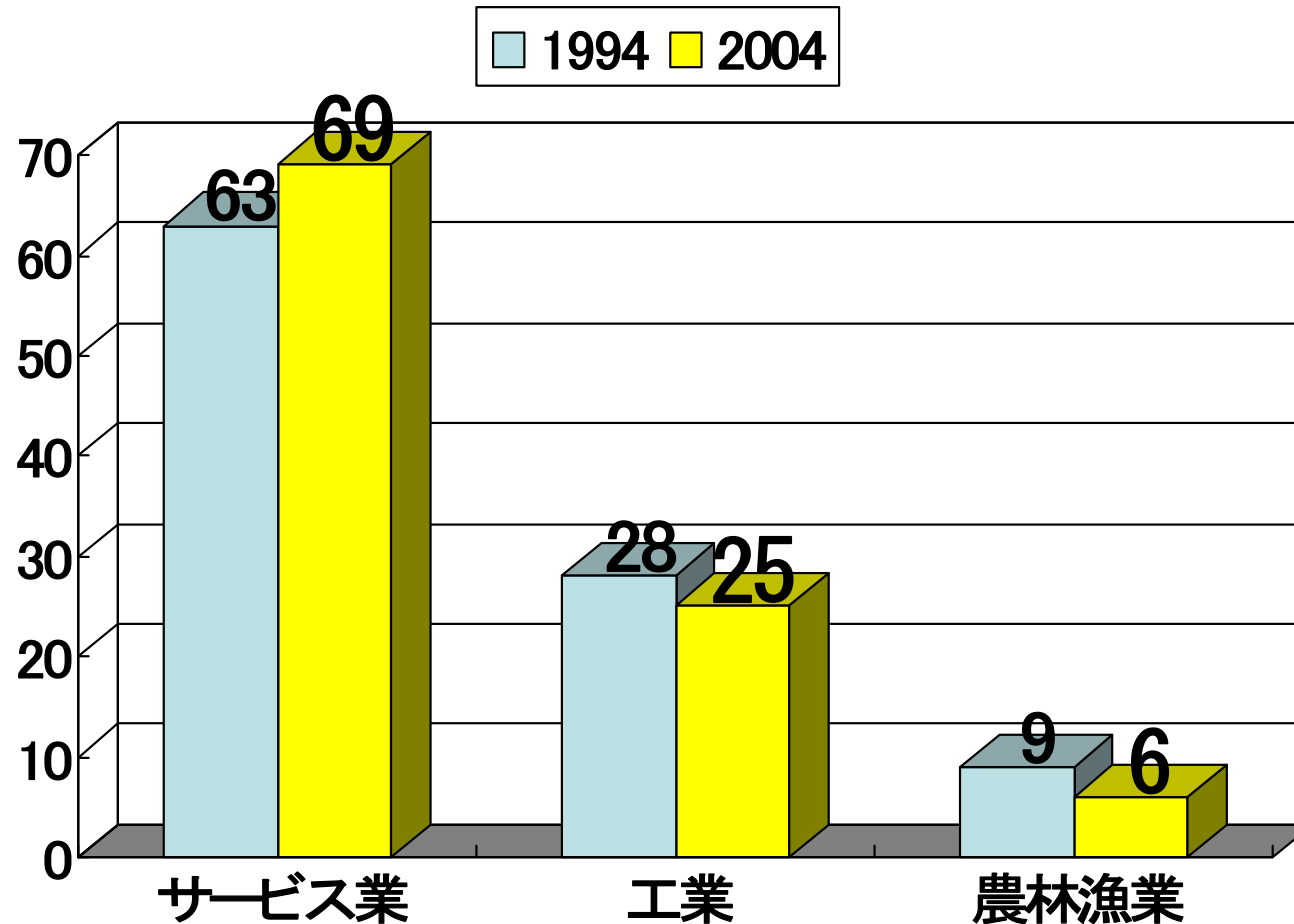


Statlink : <http://dx.doi.org/10.1787/888932321644>

典 : International Telecommunication Union (2009), *World Telecommunication Development Database*.

ICTを活用した教育は、世界の課題

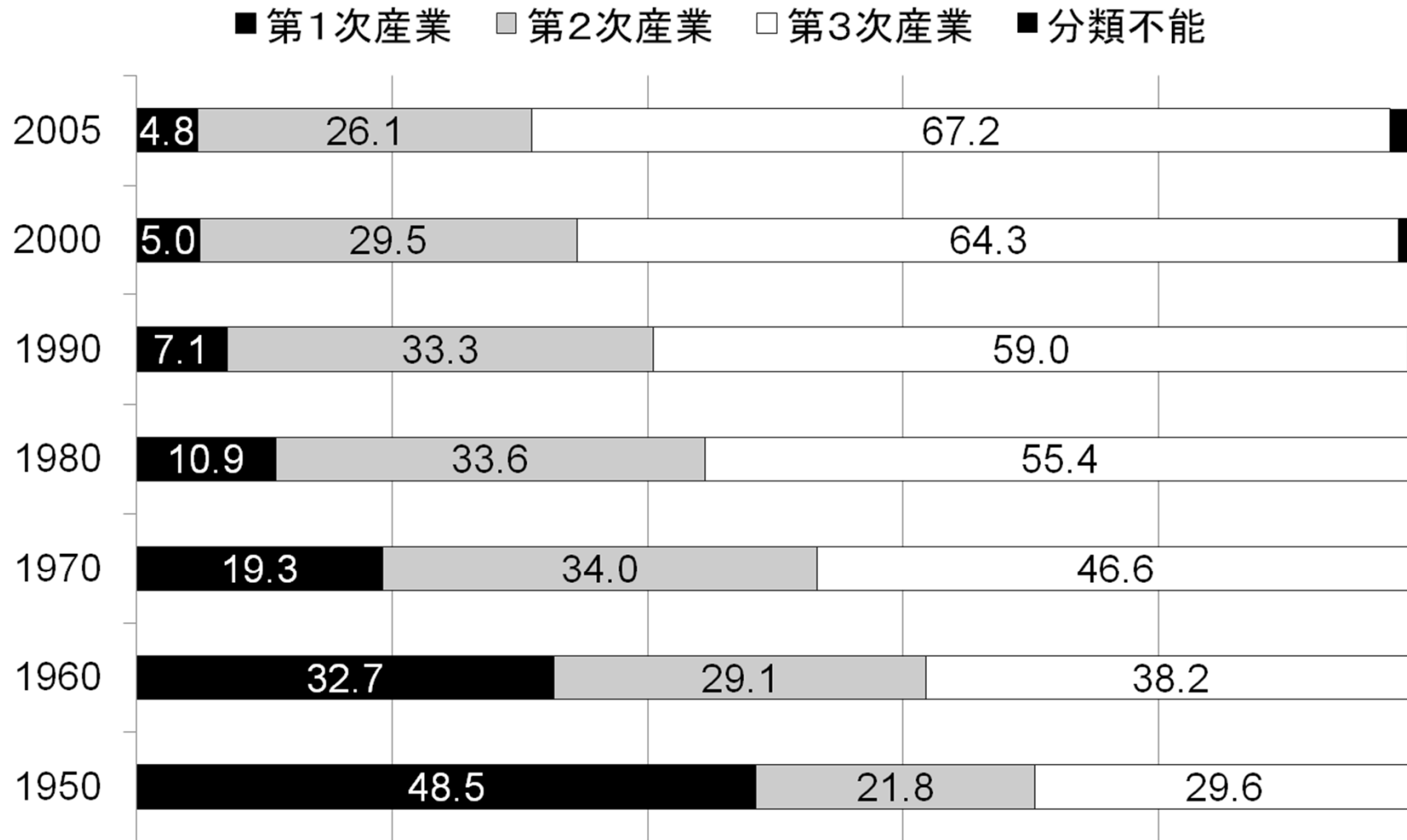
# OECD諸国の労働人口構成(%)



サービス業就業者

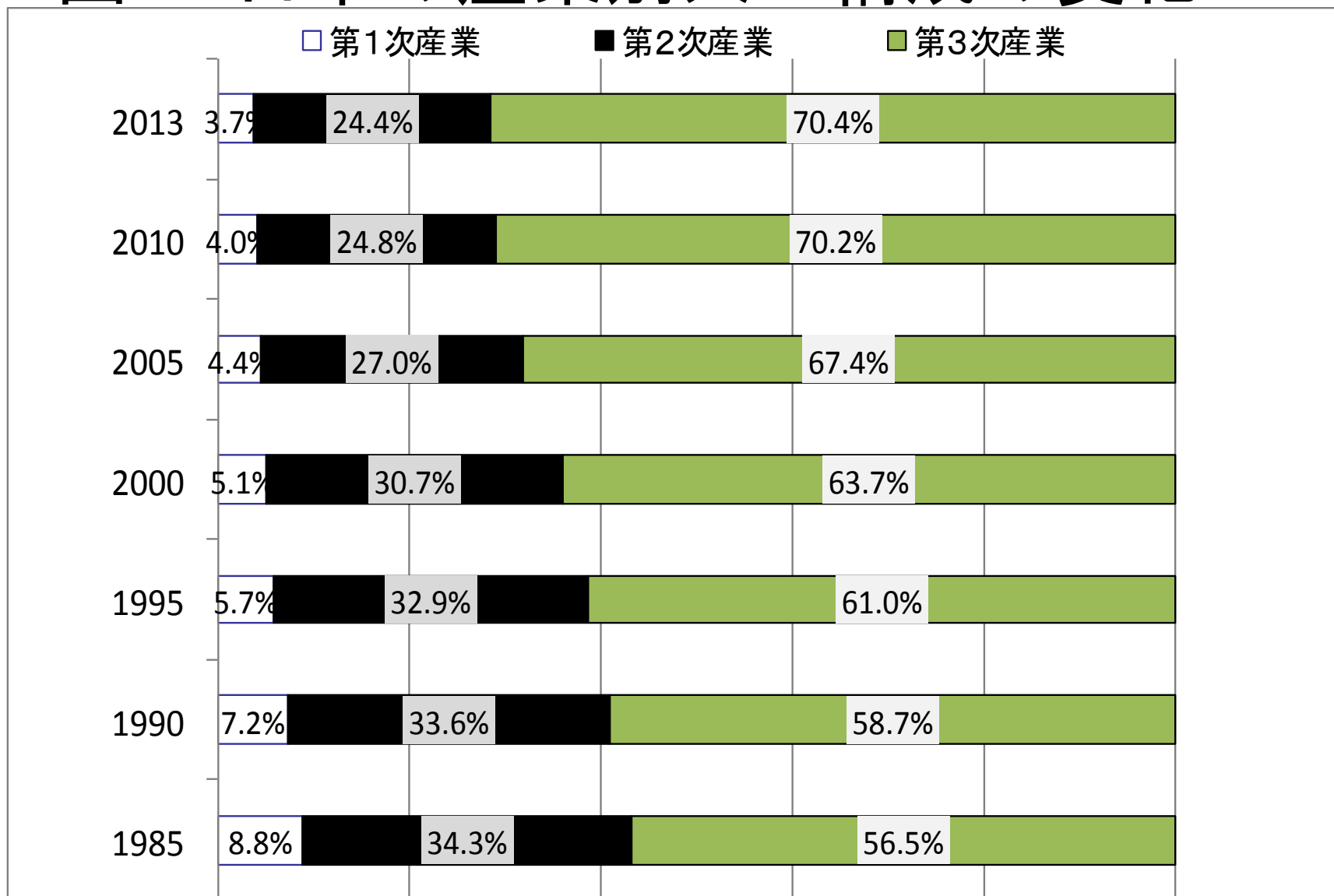
→ナレッジワーカー(知識産業労働者)の増加

# 日本の産業別人口構成の変化



資料:国勢調査 15歳以上人口構成比\*2000年より分類が若干変化 <sup>11</sup>

# 図1 日本の産業別人口構成の変化



資料 総務省統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室「労働力調査年報」2000年より分類が若干変化

# 知識を創造する学習の時代へ

**受動型学習**：示された知識や技術を言われたまま学ぶ



**対応型学習**：問題が生じた時だけ必要なことを学ぶ



**参加型学習**：能動的な学習者としての態度と問いを学ぶ



**創造型学習**：自ら知識や技術、社会を創る方法を学ぶ

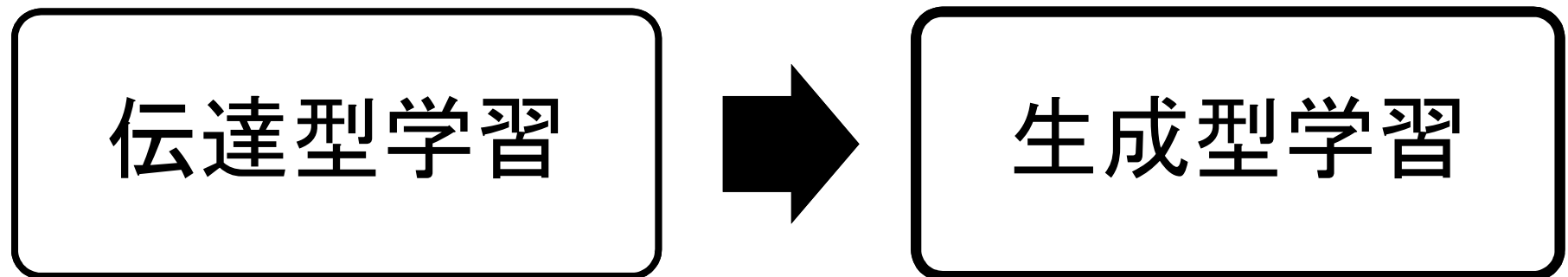
# ナレッジ・マネージメント (knowledge management)

- **知識の生産－普及－活用**
- **創意工夫** (ちょっとした工夫)
- **知識の共有** (暗黙知～形式知)
- **最良の実践モデル**
- **資源管理** (時間、空間、知識)

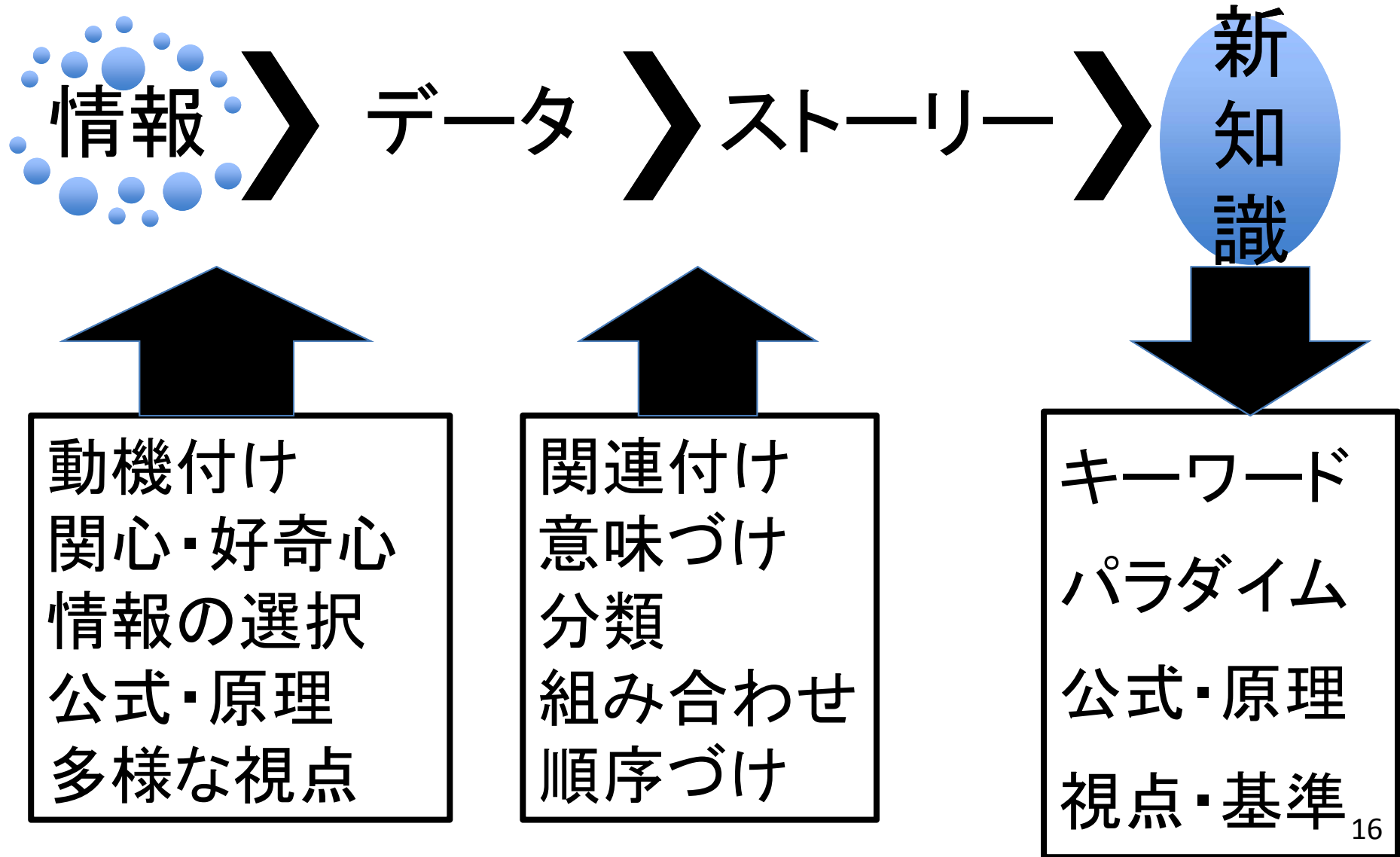
# 調べる学習と探究学習



## 探究学習



# 知識の生成とは





## Ⅱ コンピテンシーをめぐる議論

### 社会の変化や要請に 対応するために必要な力

#### ○次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」

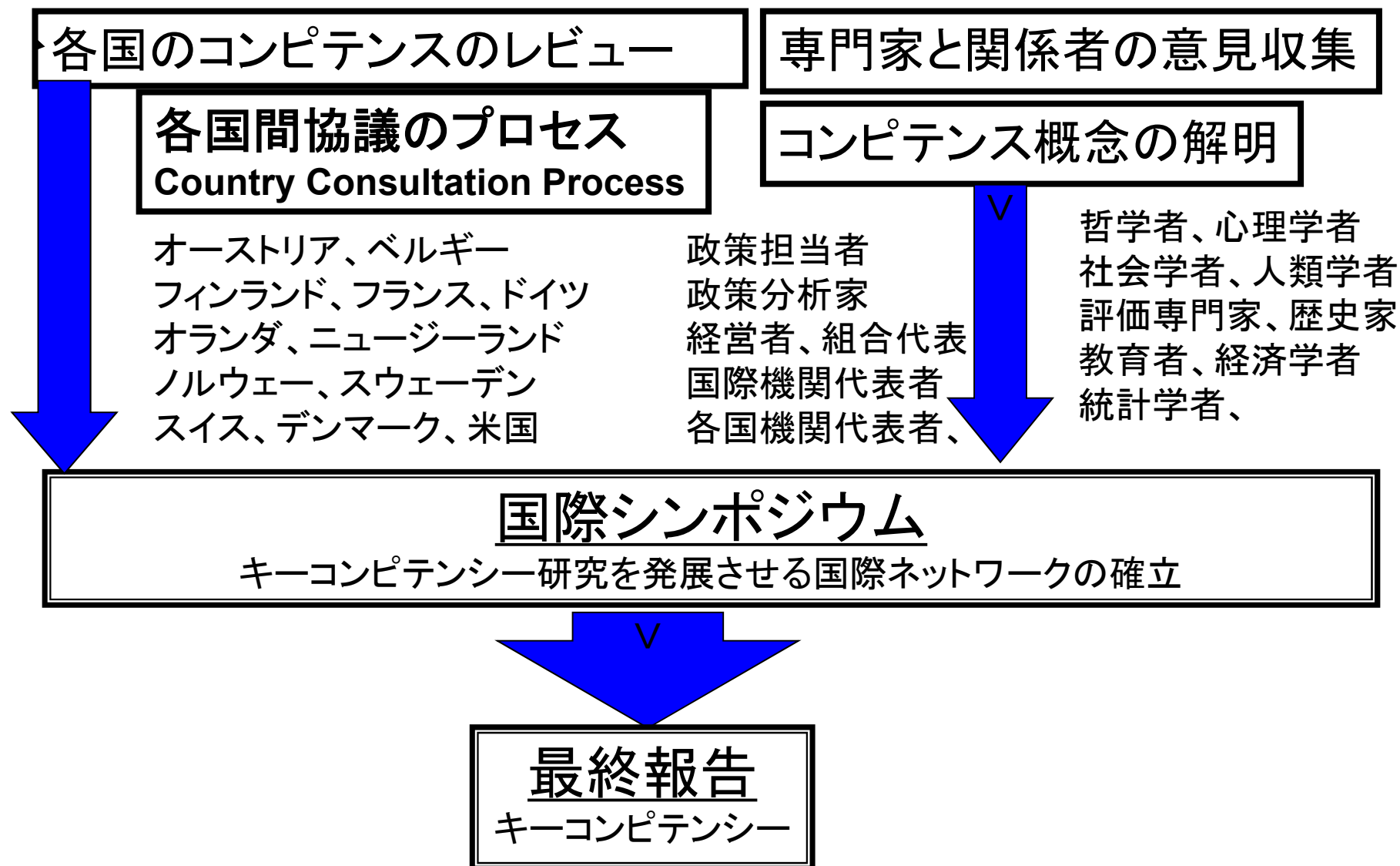
子どもたちに必要とされる「生きる力」は学校教育のみならず、実社会における多様な体験等と相まって伸長していくもの。子どもたちが学校の内外で、その発達段階に応じて「生きる力」を育むことができるような環境づくりが求められている。

#### ○成人に必要な変化の激しい時代を生き抜くために必要な力

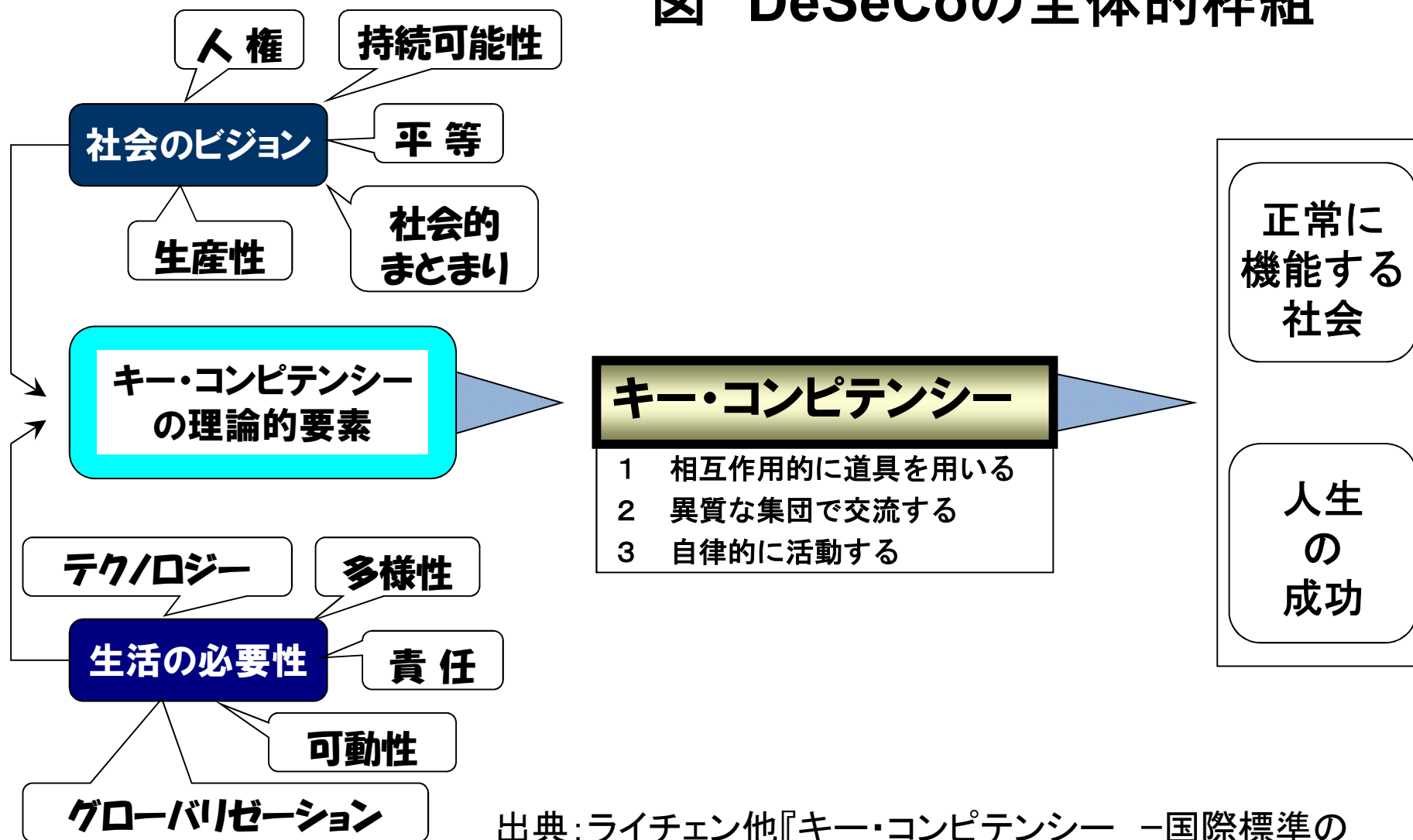
成人についても、変化の激しい社会を、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることができるよう、生涯にわたって学習を継続でき、その成果を適切に生かせる環境づくりが求められている。

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」  
(平成20年2月 中央教育審議会答申)

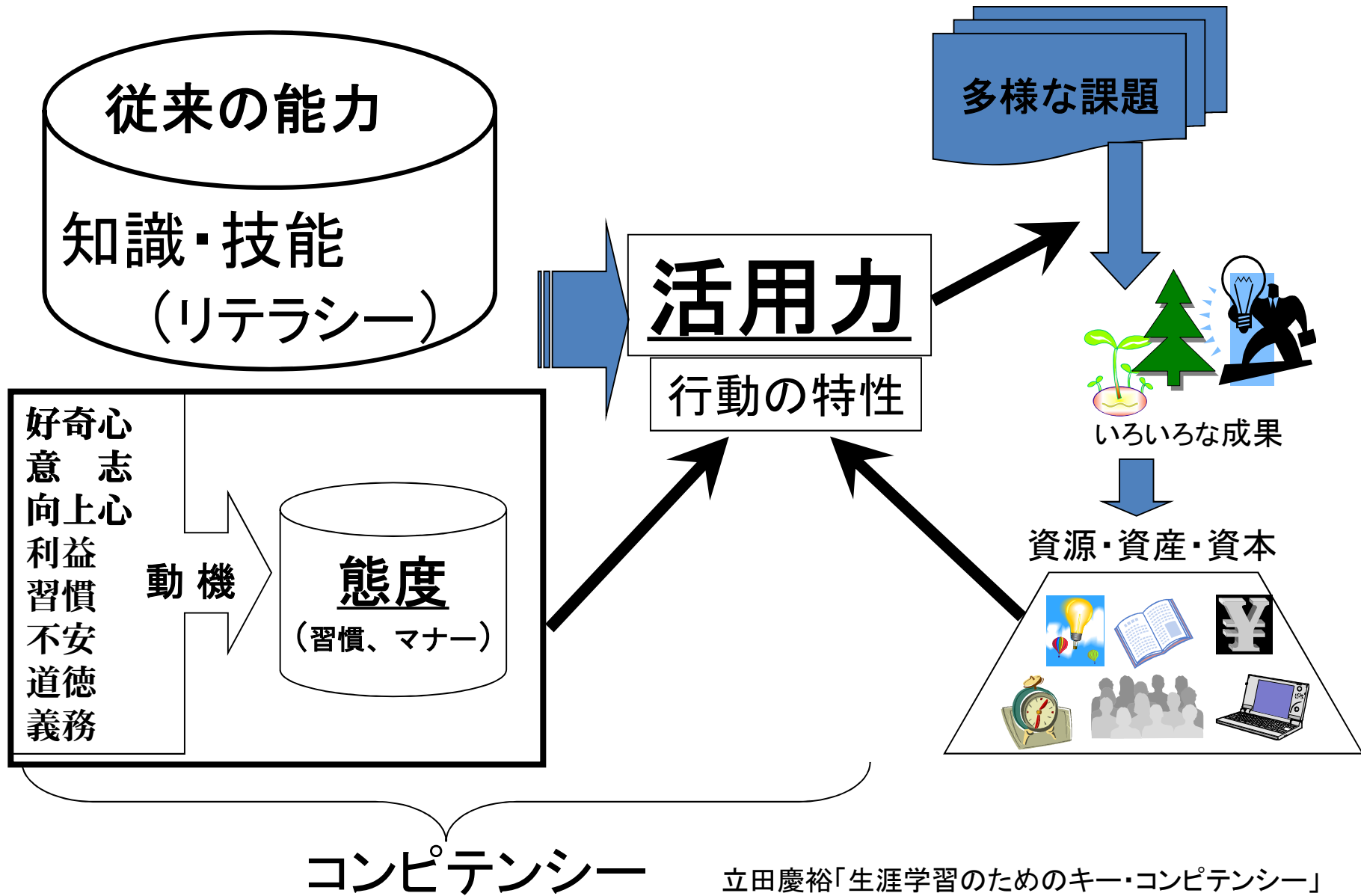
# 図 OECD DeSeCoプロジェクト (1999~2002)



## 図 DeSeCoの全体的枠組



出典：ライチエン他『キー・コンピテンシー -国際標準の学力をめざして』立田慶裕監訳、2006、明石書店



立田慶裕「生涯学習のためのキー・コンピテンシー」  
『生涯学習・社会教育研究ジャーナル』、2007より

# コンピテンシー・レベル

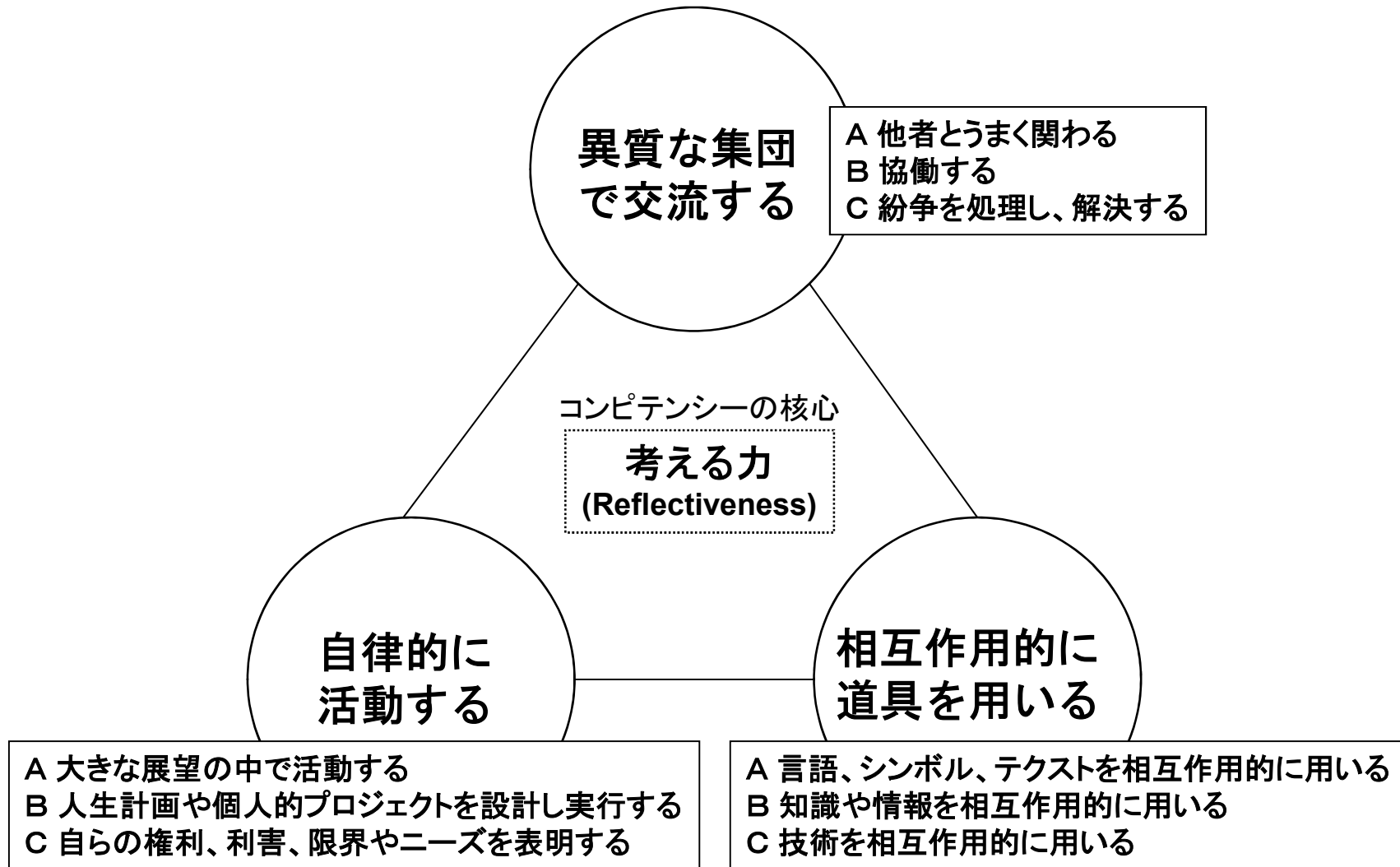
レベル	行動の特性
5	人に教えることができる
4	状況に応じて能力を活用できる
3	一人でもできる
2	人に教えられたらできる
1	意欲がない

# キー・コンピテンシー

特定の問題状況に対応するため、  
知識や技能、態度を含む多様な資源を活用し、  
動員して、複雑な需要やニーズに応える力

- 1) 人生の成功と正常に機能する社会を目標とする
- 2) 幅広い文脈で、重要・複雑な要求や課題に応える
- 3) すべての個人にとって重要

# 三つのキー・コンピテンシー



# キー・コンピテンシーの意義

共通の基礎能力の向上

— すべての人の能力向上

人を比較したり, 競争的な状況におくのではなく, 共に生きることを学ぶ

無能感ではなく 有能感(自己効用感)  
をもたらす

学習者の自信や自尊心の向上



表1 近年の教育国際調査-幼児教育から成人まで.docx

ECES	(The IEA International Early Childhood Education Study) 幼児教育の実態、展開状況を分析するための国際比較研究。2015年に開始予定？
PIRLS	(Progress in International Reading Literacy Survey) 小学4年生を対象とした読解力の国際調査。2001～。
TIMMS	(Third International Mathematics and Science Study) 小学4年生と中学2年生を対象にした国際数学・理科教育動向調査。1995～。
ICCS	(The International Civic and Citizenship Education Study) 13～14歳を対象に公民教育や市民性教育の成果を測定する。2009～。
ICILS	(International Computer and Information Literacy Study) 13～14歳を対象にコンピュータや情報リテラシーを活用し、家庭や学校・職場・地域に参加する能力を測定。2013～。
PISA	(Programme for International Student Assessment) 15歳を対象として読解力と数的リテラシー、科学的リテラシーや新たな調査を試みる生徒の学習到達度調査。2000～。
TALIS	(Teaching and Learning International Survey) 教員を対象として効果的な教育実践と学習環境作りをめざす、OECD 国際教員指導環境調査。2008～。
AHELO	(Assessment of Higher Education Learning Outcomes) 大学生を対象に学習成果の測定を目指す高等教育における学習成果の評価調査。2011年～試行調査。
PIAAC	(Programme for the International Assessment of Adult Competencies) 1990年代成人リテラシー調査を継ぎ、16～65歳のコンピテンシーを測定する国際成人力調査。2008～。

(立田慶裕,2014,6-7頁より)

# PISA型学力とは

国際生徒の学習到達度調査 (PISA, 2009)

「読解力とは、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力である。」

(engaging with written text)

2009年調査より加わる

(国立教育政策研究所、2010、12頁)

# PISA型読解力？

これまでの読解力とは異なる点

①テキストに書かれた「情報の取り出し」だけではなく、「理解・評価」(解釈・熟考)も含んでいる。

②テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの「活用」も含んでいる。

③テキストの「内容」だけではなく、構造・形式や表現法も評価すべき対象となる。

④テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけでなく、図、グラフ、表などの「非連続型テキスト」を含んでいる。

→PISAの結果 学力低下論争 全国学力テストの実施と見直し

# PISA型読解力の要素

**3 熟考・評価 (Reflection and evaluation)**



**2 解釈 (Interpretation texts)**



**1 情報の取り出し (Retrieving texts)**

# コンピテンシーの各要素 (PISA2006の枠組みから)

## 科学的コンピテンシー

3 科学的証拠の活用  
(Using Scientific Evidence)



2 科学的な現象の説明  
(Explaining Phenomena scientifically)



1 科学的問題の認識  
(Identifying Scientific Issues)

## 数学的コンピテンシー

3 熟考 (Reflection)  
広い数学的思考



2 関連づけ (Connection)  
アイディアの結びつけ



1 再現 (Reproduction)  
簡単な数学的操作

# PIAAC

## OECD国際成人力調査

(Programme for the International  
Assessment of Adult Competencies)

成人のコンピテンシーに関する国  
際評価プログラム

# 対象者と方法

**16歳以上65歳以下の男女**

**11,000人より**

**住民基本台帳から層化二段抽出法によって無作為に選定**

**2013年調査**

**回答者 5,173人**

# PIAACの目的

**成人のコンピテンシー、読解力や  
数的思考力、ITを活用した問題解決力  
の測定を通じて、その「成人力」が、  
これまでの学習状況、雇用状況、生  
涯学習への参加など個人の生き方に  
どのような効果をもたらしているか、  
また、そうした学習の状況や学習の  
成果にどのような問題があるかを明  
らかにすること**



# PIAACの調査内容

## 1. 直接調査(テスト)

読解力基礎(日本は未実施)

リテラシー(読解力)

ニューメラシー(数的思考力)

ITを活用した問題解決力

## 2. 間接調査(アンケート)

属性 +  $\alpha$

## 2)成人の生活背景の範囲

家庭や家族、消費者経済、  
健康や安全、仕事、  
地域とシチズンシップ、  
余暇や娯楽  
教育と訓練

## 多様な問題のレベル

- 情報の同定と取り出し

- 関係の構築

(原因／効果、問題／解決、  
比較／対照、分類／例、  
全体／部分)

- 生成

# 21世紀スキル

## 教科の知識

### ①コア教科

(英語・読み・言語技術、外国語、芸術、数学、経済、科学、地理、歴史、政治と公民)

### ②学際的テーマの教科

(グローバル意識、金融・経済・ビジネスと起業リテラシー、公民リテラシー、健康リテラシー)

## コアスキル

### ①学習とイノベーションスキル

(批判的思考と問題解決、コミュニケーションと協働、創造とイノベーション)

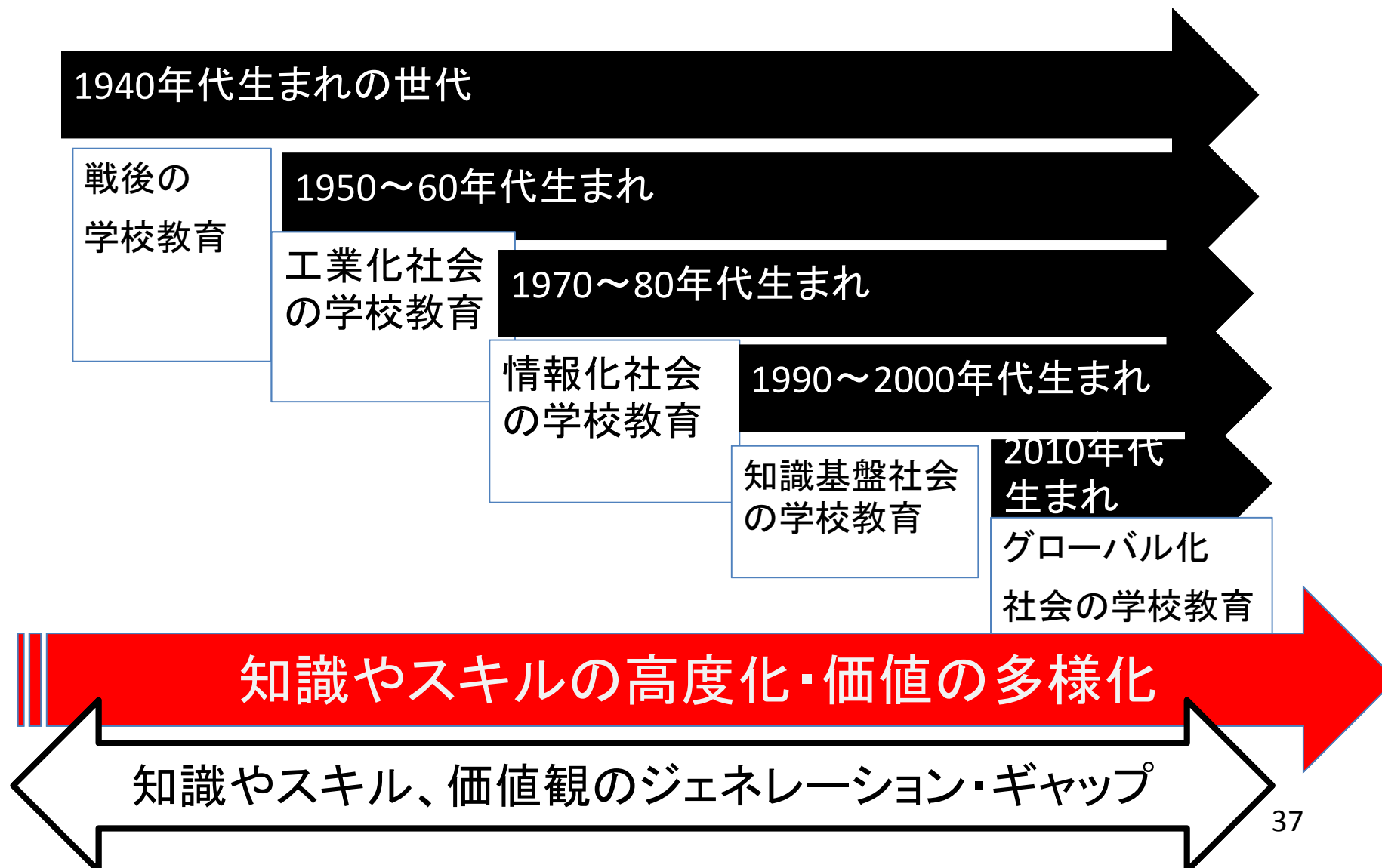
### ②情報・メディア・テクノロジースキル

(情報リテラシースキル、メディアリテラシースキル、ICTリテラシースキル)

### ③生活とキャリアスキル

(柔軟性と適応性、進取と自己方向づけ、社会／文化横断スキル、生産性とアカウンタビリティ、リーダーシップと責任)

# Ⅲ 社会人に求められる学び直し



# Questions 問い

- 1) これからの社会で  
子どもに必要とされる資質や能力は何か  
OECD DeSeCo Key Competency



20~30年後

- 2) これからの社会で  
おとなに必要とされる資質や能力は何か

# コンピテンシーの高度化

## PISA型読解力の展開(2009～)

### ●メタ認知

「はっきりした目的を持ってテキストを処理する際の、多岐にわたる適切な戦略を認識することと、この戦略を利用する能力」(理解と記憶の効果的な戦略の認識、要約の戦略の認識、コントロールの戦略、記憶戦略、精密化戦略など)

### ●デジタル読解力

コンピュータ使用型の調査の導入。複数のナビゲーション・ツールを利用し、複合型のテキストを横断して、特定のウェブにたどり着き、特定の情報を見つけ出すスキル

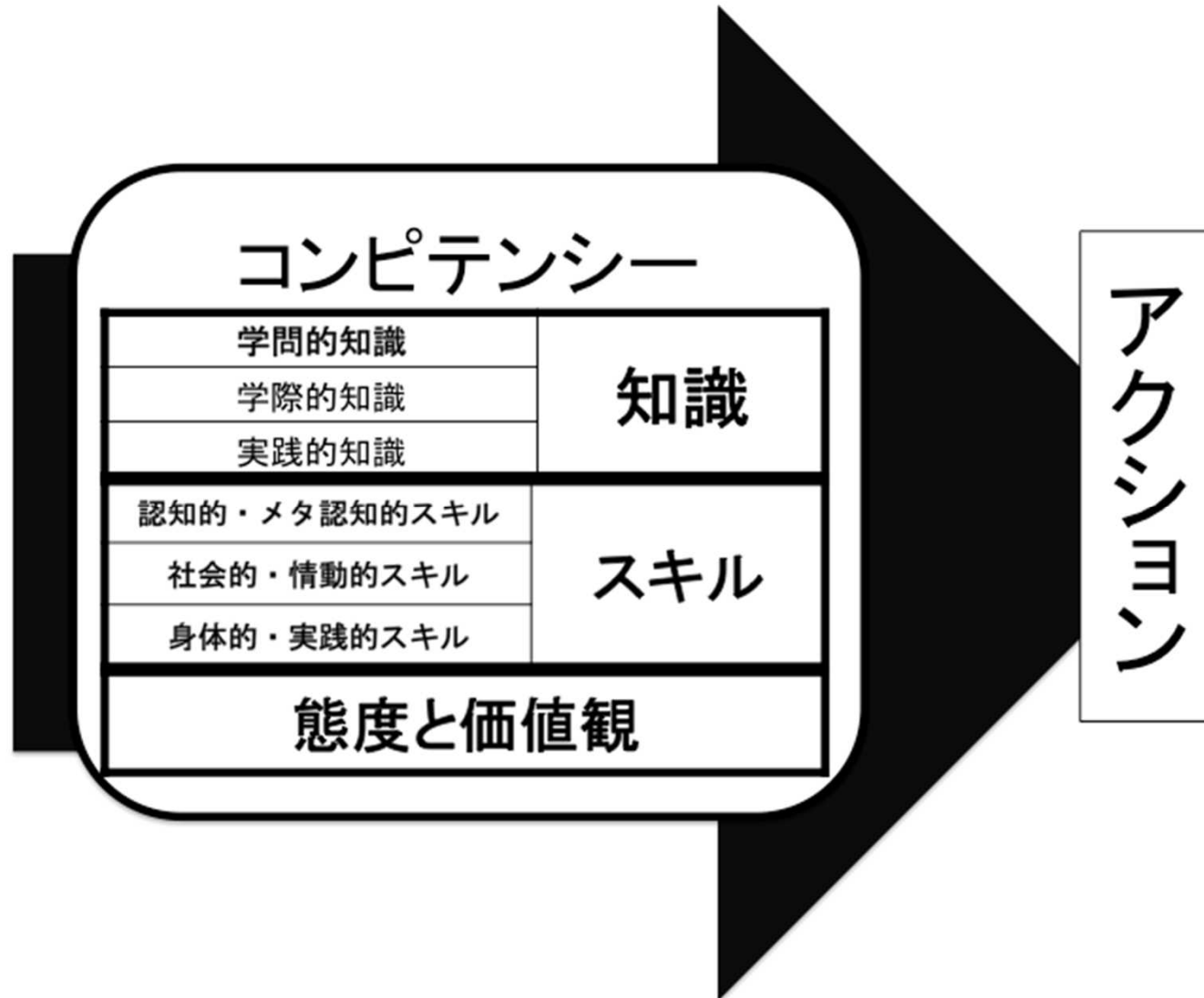
### ●問題解決能力(チームによる問題解決)

### ●優れた学校環境の形成:

新たな力を育てる教育環境の構築:

# PISA型読解力の展開(2018～)

## ●グローバル・コンピテンス





## OECD Education 2030 Framework (2016)

- 1) 伝統的な学問のカリキュラムの発展は、知識を創造し、21世紀の理解を産むために急いで進められるべきである。
- 2) 人間行動を形成するスキル、態度、価値観は、学校や家庭で時にみられる差別的な行動に立ち向かうためにも見直されるべきである。
- 3) 現代の学習の本質的な要素は、最高の学び方を考える力にある。
- 4) 各学習者は、自律的に行動するコンピテンシーのように、最小限のキー・コンピテンシーを達成するよう努力すべきである。コンピテンシーとは、学習プロセスの反省的アプローチを伴いながら、世界に参加し世界で行動するために、知識やスキル、態度や価値観を状況に応じて活用する力である。グローバルコンピテンシーもまた、このモデルに基づき正しく構築されていく。

# 生きる力を育てる

自律的に生きる  
(Story Telling)



道具を使う  
(Using Tools)



世界で行動する  
(Problem Solving)

仕事の力

健康の力

楽しむ力

物を作る

人を育てる

社会を作る

共に生きる

人を扶ける